

COVID-19流行前後での京都女子大学学生における学修行動分析 -ALCS学修行動比較調査を用いて-

○ 西村 綾乃¹ 丸野 由希¹ 田中 貴久²
¹京都女子大学 現代社会学部 ²京都女子大学 大学改革推進室

要約

ALCS 学修行動比較調査を用いて、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の流行が学生の学修行動にどのような影響をもたらしたかについて、2019年から2021年までの3年間の各年度の傾向の比較分析をした。

設問カテゴリごとの平均スコアを用いて非階層的クラスタ分析を行なったところ、学生の学修行動は5つの傾向に分類でき、COVID-19の流行前後で学修行動の傾向に変化が生じていたことが分かった。また、COVID-19によって学びの環境が大きく変化する状況下でも、様々なことに挑戦したいという希望意欲を高めていることが考えられる。

研究背景・目的

【背景】

学生の学修行動や傾向を分析することは、学生が学びに対してどのようなニーズを持つのか、何に不満を抱いているのかを理解することに繋がる。COVID-19の感染拡大で学びを取り巻く環境が大きく変容したことにより、学生の学修行動に何らかの影響を与えているのではないかと考えられる。

【目的】

COVID-19感染拡大がもたらした学生生活の急激な変化の影響や特徴を、ALCS学修行動比較調査結果 [1] を用いて分析する。

分析方法

- 非階層クラスタリングを用いて、学生を傾向ごとに分類
- 評価スコアを用いたレーダーチャートを作成

【調査対象】

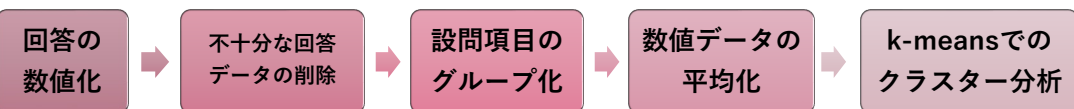
京都女子大学に在籍する1回生・3回生を対象に実施された2019年から2021年のALCS学修行動比較調査結果

【調査設問項目】

6段階評価で調査された3つのカテゴリに所属する設問群を対象とし、スコアリングした回答結果を分析に用いた。

カテゴリ名	内容	設問数(問)
経験	学修に関する経験	22
満足	教育・施設設備・環境・制度	18
希望	学修に関して望んでいること	16

【分析の流れ】



【回答の数値化】

○経験カテゴリ

選択肢	かなりよくあった	よくあった	たまにあった	あまりなかった	ほとんどなかった	まったくなかった
数値	3	2	1	-1	-2	-3

○満足カテゴリ

選択肢	十分に満足	満足	少し満足	やや不満	不満	かなり不満
数値	3	2	1	-1	-2	-3

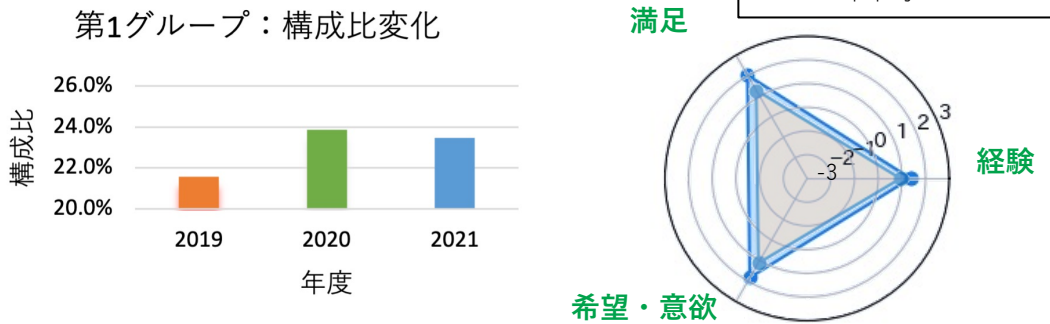
○希望・意欲カテゴリ

選択肢	強く望んでいる	望んでいる	いくぶん望んでいる	あまり望んでいない	望んでいない	まったく望んでいない
数値	3	2	1	-1	-2	-3

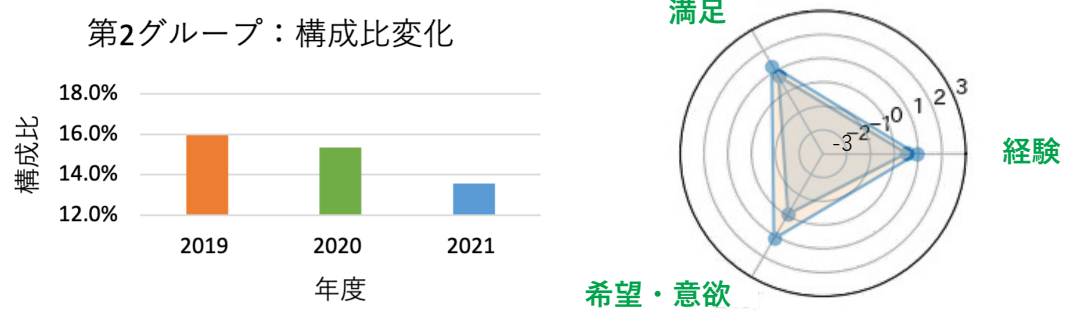
結果

各年度とも共通して5つの傾向に分類できた。

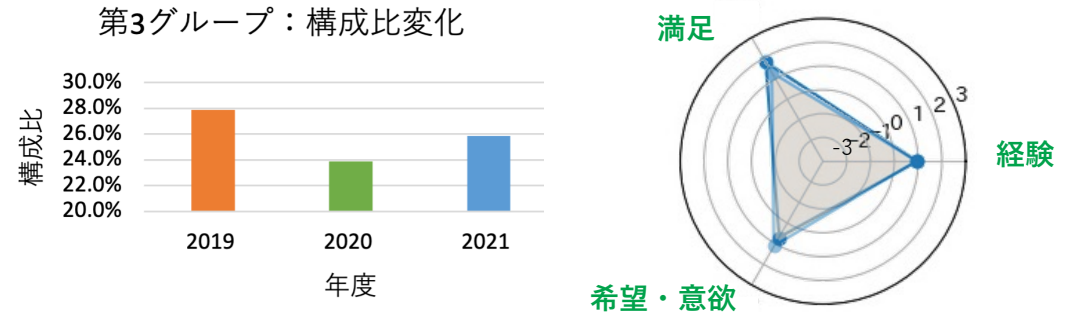
第1グループ：全体的に評価が高い学生層



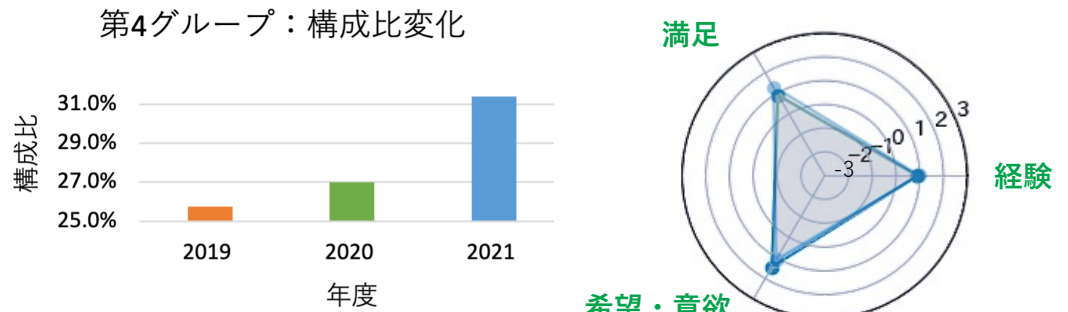
第2グループ：全体的に評価が低い学生層



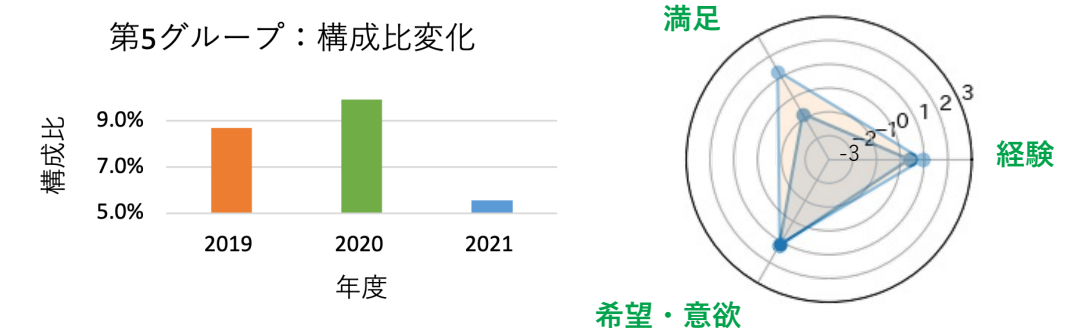
第3グループ：満足・経験スコアが高く、希望スコアが低い学生層



第4グループ：希望スコアが高く、経験・満足スコアが低い学生層



第5グループ：希望スコアが高く、経験・満足スコアが低い学生層 (特に満足スコアが極端に低い)



考察

全体的に評価が高い学生の割合が増加傾向にある
 学修環境のオンライン化によるポジティブな影響が考えられる

希望スコアが平均以上である学生の割合が年々増加傾向にある
 学修環境が変容する中でも挑戦することへの希望を高めている

参考文献

[1] 教学比較IRcommons, ALCS学修行動比較調査
<https://cmpir.jp/site/alcs1.php>, (2022/10/28 閲覧)